



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っている。

発行：誇りと夢・まちづくり日新広報部会  
 文京5-1-8 日新公民館  
 発行日：2010年9月22日

日新

苟日新 苟に日に新たに  
 日日新 日々新たに  
 又日新 又日に新たなり

出典「大学」

ゆめ  
 にっしん

地区行事から

文里夏まつり

～フェニックスまつり協賛  
 日新地区民踊大会とともに～

7月25日(日)、文里夏祭りが今年も上里白山神社境内で開催されました。28回を迎えた今回は例年と比べ、一段とグレードアップ。焼鳥のほか、クレープ、かき氷、カステラなど、夜店は盛り沢山。どの子供たちも、射的に、ボールすくいに、ビンゴゲームに、夢中になって歓声を上げていました。

最高潮は、日新地区民踊大会と文里子供太鼓のコラボレーション。

♪おどりおどるなら やーやーん おどれよ♪  
 子供たちがバチをさばく。

これに合わせて浴衣姿の地区民が二重三重に輪をつくる。初めての試みでしたが息もぴったり。

大きな笑顔がいつまでも夏の夕べに広がっていました。



公民館の3人娘



8月から新主事 向川幸恵さん(写真右)が加わり、新体制でスタートしました。9月の敬老会、10月には公民館まつりと大きな行事が続き、主事パワーが全開になるこの時期、3人のチームワークでよりパワーアップされることでしょう。

また夕方6時まで(従来は5時)主事さんが、公民館にいることにもなりました。(原則として)

よろしくお願いします。

わがまち匠



きりえの楽しさ

矢納健蔵さん(74) 乾徳4

今回は、公民館2階に飾られているきりえ「里神楽」の作者、矢納さんをお訪ねしました。

きりえとの出会いは30年程前、図書館で目にした作品集でした。その後、きりえの作品展や群馬県のきりえ美術館を見学に行き、すばらしい作品に魅かれて独学で始めたそうです。生来の器用さもあり、上達が早く「日本きりえ美術展」に第22回(1989年)から応募。毎年東京の会場に出品されるようになりました。

作り方は、自分で撮影した写真からモチーフを選び、そこからオリジナルデザインを考え、下絵が出来上がるまでに3ヶ月、きりえの作製に3ヶ月、1つの作品が完成するまでに半年ほどかかるとのこと。材料の和紙は今立まで出向いて選ばれるとか。

「一番のお気に入り」は?との質問には、迷わず即座に「ジャンプ」と題する第24回応募作を示されました。きりえはもちろん、カメラも玄人はだし。草花を愛でる矢納さんから「趣味を楽しめる人間であれ!」とのメッセージをいただきました。ますますのご活躍を。

☆「ジャンプ」は公民館まつりに展示いたします。



お気に入り「ジャンプ」の前で



独特の「目」がもよう矢納作品

日新春秋

▼兵庫県田野間谷村の村長・門脇政夫さんは、戦後間もない昭和22年に村中のお年寄りを集めて敬老会を開いた。皆くもなない寒くもない、農作業もまだそんなに忙しくないということ。▼9月15日にしたという。▼その後敬老の日制定を世論に訴え、「としよりの日」「老人の日」に改められ、昭和41年に国民の祝日「敬老の日」となった。その趣旨は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」である。▼20年30年先を見通した先駆者、福祉を先取りした偉大な政治家である門脇政夫さんが、本年2月亡くなった記事があった▼さっこんん方の方から100歳以上の高齢者が続出していると報じられた。敬老の日は祝日として存続しているが、これを機にもう一度「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことに焦点を当て、地区敬老会を益々意義あるものにしたいたいものだ。▼20日の敬老会出席し、感謝しながら、門脇政夫さんを偲んで思った。

半可通美







**文里地区 南部家**  
6人家族です。左から茉依(まい・10歳)竣哉(しゅんや・3歳) 凜良(ら・8歳) 椋耶(りょうや・6歳)です。時々ケンカもするけど、仲良しの姉と弟たちです。スイミングや体操、運動教室などをそれぞれががんばっています。



**堀ノ宮地区 日下家**  
家族の趣味・おじいちゃんには野菜作り、おばあちゃんはカラオケ、おねえちゃんはスイーツ作り、僕はサッカーで、お父さんお母さんは仕事で頑張っています。これが僕の家族です。よろしく。

**乾徳地区 藤田家**  
3世代6人家族です。地区の方々には家族それぞれいろいろな活動を通してお世話になっております。孫2人と3匹のおかけかとてもにぎやかな毎日です。(中学生の孫が撮りました。)



## 誇りと夢・わがまち創造事業

### 交通部会

7月22日に出前講座「交通とまちづくり」を開催し、約30名の参加者が、市役所交通政策室の職員4人よりコミュニティバス運行支援事業の概要説明を受けました。コミュニティバスとは地域内の日常行きたい所(スーパー・病院など)を巡回するバスで、高齢者、学生など運転免許を持たない人や、自動車はあってもエコの観点から公共交通機関を利用したい人のために巡回する小型バスです。今後は、地域住民の声を聞くという目的で「コミュニティバス事業アンケート」を実施していきます。



### 環境部会

地域子ども塾・日新子どもの広場では、8月25日底喰川ウォッチングが実施されました。環境部会はこのウォッチングを成功させようと、22日会場周辺の草刈り・ミソハギの手入れと安全確保の点検を行いました。また、当日は魚釣りで危険防止の見守り、公民館では釣りあげた魚の魚拓作りの手伝いも。「生き物」を観察する子どもたちのいきいきとした姿から、支援を行ったことの喜びを共有することができました。



(魚釣りの安全を願いつつ点検作業)

### 文化部会

9月5日猛暑の中、暦では早や「中秋の名月」の季節を迎え、例年通り「秋の七草観賞会」を開きました。30組の保護者とお子さんたちが参加して下さり、秋の七草(萩・ススキ・クズ・キキョウ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ)についてのお話の後、3班に分かれておだんご作りを楽しみ、その後、自分たちで作った月見だんごを食べながら、紙芝居、フルーツ・ピアノの演奏を聞き、最後に「崖の上のポニョ」「幸せなら手を叩こう」「小さい秋みつけた」など皆で大合唱し、にぎやかで楽しいひとときを過ごして終わりました。月見とは「満月を眺めて楽しむ会」いにしえの人々の心に思いを馳せながら、参加者はじめ皆さんのおかげで楽しい時間を持てたことスタッフ一同うれしく思いました。



### 広報部会

8月1日、ホームページ更新の講習会を催し、10名の出席が。その後早速行事の報告がupされた団体がありました。今後もさらに多くの行事が掲載されるように期待します。

## 底喰川 その2

—ウオークで底喰川を見る— 平成9年9月15日

あまりにも汚い底喰川。道路を歩いても臭う底喰川。が地区民が「川って、こんなもんだ」との感覚になりきっていたら如何ともしがたい。きたないなー、きれいにできないかなー、の発想が大切、と思った。

福井市のうらがまちづくりは一人一役の市民参加、運動会型まちづくりである。そこで、当時の「人にやさしい福祉のまちづくり」テーマの趣旨に沿い、「ふれあいウオーク」を企画、福祉施設を地区民が一つになって訪問するコースに「底喰川観察」を入れ実状を見て回った。日新小一虹の会一留学生会館一福井ケアセンター一底喰川一公民館一福仁会病院一ひまわり児童館一日新小のコース。学校に戻って「敬老会」を祝福した。



参加者190名と多く、2グループ編成になった。

## 三ヶ用水

現上里の踏切から上里、堀ノ宮、そして文京7丁目へ流れている三ヶ用水。やがて底喰川へ流れ落ちている。

田畑に水は欠かせない。用水路は絶対に必要であるが、農民は勝手には作れない。牧ノ島・上里・堀ノ宮村の耕地を灌漑するために、この地区の農民が藩や上手の開発・大願寺村にお願いしてつくったのが「三ヶ村」用の三ヶ用水である。

開発・大願寺村の悪水・吐水(一度使った水)を大願寺に水門を設けて溜め、水を引いた。「つくるときには、開発村が立会い、大願寺がつくる。三ヶ村は必要な人足、縄、俵などの資材を出して手伝った」わけである。

水門の高さ、幅、指戸(水門用の堰止め戸)などは定めがあった。改修などには用水奉行や関係する村の許可がなければできなかった。干天が続けば水不足、地区の用水は末流であるため「水飢饉」となる。深刻であった。村で管理しているもの、時には水喧嘩、血の雨も降ったようだ。いまは5~6枚の田んぼに利用されている。



大願寺の水門



いまは「涼」をくれる三ヶ用水